



一中だより

令和8年9月4日 発行 第5号

新潟市立新津第一中学校

電話 0250 (22) 3622 FAX 0250 (22) 6407

HP <http://www.niitsuljh.city-niigata.ed.jp/>

2学期が始まりました

2学期が始まって一週間余りが経ちました。本日、第2回定期テストが終了したところです。

2学期にはテストの他にも、たくさんの行事が予定されています。例えば、体育祭や合唱コンクールは、仲間とともに各連合や学級の団結力や感性を精一杯表現できる行事となります。また、進路実現に向けた進路説明会（3年生）や来年度の生徒会活動の中核を担う役員選挙も予定されており、どの行事も生徒たちの成長を確認するとともに、将来を展望するよい機会です。実りの多い2学期になることを期待しています。



令和8年度 学校評価 中間報告

7月に実施いたしました「学校評価アンケート（生徒・教職員）」の集計・分析結果がまとまりました。今年度の重点目標に沿って、学校の現在地と今後の改善の方向についてご報告いたします。

「温かい人間関係」

🏠 学校（教職員）の取組と姿勢（肯定的な回答の割合）	👤 生徒たちの実感と人権意識（肯定的な回答の割合）
・ 生徒同士の良好な人間関係づくりに努めた： 97% ・ 行事の事前、事後指導の充実に努めた： 94% ・ 不登校（傾向）生徒への適切な支援体制づくりに努めた： 97% ・ いじめの早期発見に努め、確実に生徒に対応した： 97%	・ 自分や周りの個性や違いを認め、大切に生活している： 98.1% ・ 学校生活で、友達と力を合わせて活動している： 93.5% ・ いじめは、どんな理由があってもいけない： 95.8% ・ 思いやりの心をもって、人と接している： 95.4%

生徒の人権意識や仲間を大切にすること意識は総じて高いと考えられます。また、教職員の評価も生徒同様に高い水準であることから、学校として推進している支援的な人間関係づくりの取組が生徒の人権意識や仲間を大切にすること意識として表れていると評価できます。これは新津一中に通う生徒の大きな強み・良さと言えます。

今年度の重点項目の達成状況と「次への一手」

① 主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指した授業改革の推進

● 評価指標と達成状況

- ・ 対話的な活動を重視した授業改善を行った教職員： 目標 90%以上 ⇒ 実績 97% （達成）
- ・ 単元ごとの振り返りを実施した教職員： 目標 90%以上 ⇒ 実績 91% （達成）
- ・ 生徒の平日の家庭学習（60分以上）： 目標 60%以上 ⇒ 実績 48%
- ・ 生徒の休日の家庭学習（80分以上）： 目標 60%以上 ⇒ 実績 28.7%

● 成果（できていること）

対話的な活動を重視した授業改善（教職員の肯定率 97%）について、学校全体で推進している結果と言える。授業改善の取組が学習活動に反映され、生徒に認識されていることは一定の成果と考えられます。生徒も『学習課題がわかっている（93.1%）』、『自分で考え課題を解決している（92.8%）』、『PC・タブレットを自ら活用して調べる（89.1%）』と、自立的な学習への高い手応えを示しています。

● 課題と次への一手（これから取り組むこと）

一方で、自分の考えを表現し、伝える活動には課題があります。生徒の「学ぶことが楽しい」という肯定的回答は 78.8%にとどまっています。したがって、生徒が他者と関わりながら学びを実感できる対話的活動の実践を強化して学習意欲をより高め、それを家庭学習習慣の確立へと繋げていく必要があります。

さらに、生徒の学ぶ意欲を最大限に発揮させ、自ら課題解決や対話に向かうことのできる授業づくりに向けて、今後も PC やタブレット等の ICT 機器を効果的に活用した授業改善を推進します。併せて、生徒が安心・安全・適正に端末を利活用できるよう、ネットリテラシーの醸成（教職員の取組肯定率 84%）を図り、情報モラル教育を組織的に強化していきます。

② 支援的人間関係づくりの推進

● 評価指標と達成状況

- ・「学校生活が楽しい」生徒：目標 85%以上 ⇒ 実績 88.1%（達成）
- ・「クラスの居心地はよい」と感じる生徒：目標 85%以上 ⇒ 実績 87.7%（達成）
- ・「自分にはよいところがある」と感じる生徒：目標 80%以上 ⇒ 実績 80.2%（達成）

● 成果（できていること）

学校としての支援的な取組（人間関係づくりの活動や行事の事前、事後指導の充実など）が生徒の良好な人間関係に結びついています。人権意識や仲間を大切に作る姿勢は、総じて高い水準にあります。クラスの居心地や自己肯定感に関する指標についても、目標を達成することができました。

● 課題と次への一手（これから取り組むこと）

これからは、『支援的な人間関係を基盤として、生徒が互いに支え合いながら主体的に集団をよりよくしていく学校』へと発展させることが課題と考えています。今後は、大人が『支援する』段階から一歩進め、生徒がより主体的に行動したり互いを認め合ったりする機会を、学校行事等を通じて充実させていきます。

③ 探究学習の充実および地域との連携

● 評価指標と達成状況

- ・「地域の学習が好き」な生徒：目標 80%以上 ⇒ 実績 69.9%
- ・「地域の人に認められてうれしい」と感じる生徒：目標 85%以上 ⇒ 実績 87.3%（達成）
- ・「地域人材と連携できた」教職員：目標 80%以上 ⇒ 実績 97%（達成）

● 成果（できていること）

総合的な学習の時間における各学年の学び（地域探究・職業探究・進路探究）が体系化され、教職員の97%が手応えを感じています。「自分が住んでいるまちが好き（88.8%）」と回答する生徒も多く、地域社会への高い愛着が育まれています。

● 課題と次への一手（これから取り組むこと）

一方で、地域行事への積極的な参加や、「地域をよくするために主体的に考える」生徒は65.9%にとどまり、愛着はあっても「社会を動かす当事者意識（主体性）」が相対的に低くなっています。今後はフィールドワークや体験型の新たな活動を導入し、生徒一人ひとりが「自分も地域をつくる一員である」という意識を醸成できるよう、探究学習を充実させていきます。

★ 教職員の働きがい・働き方改革

● 評価結果（現在の状況）

- ・「ICT利活用による業務の合理化」：実績 91%
- ・「行事の精選と効率化」：実績 84%
- ・「充実して日々の業務に取り組めた」：実績 76%

● 成果（できていること）

ICT機器を活用した業務の合理化・効率化や行事の精選など、働き方改革の手段に関する評価が高い。

● 課題と次への一手（これから取り組むこと）

「日々の仕事の充実感」に関する評価結果が76%と比較的低いため、今後は「業務の効率化（手段）」よりも「仕事の充実感」に注目して働き方改革を推進していくことが課題と考えます。ICT利活用などのニーズに応じた研修に加え、得意分野をもつ教職員が学級集団づくりや実技指導のノウハウを校内で共有・レクチャーし合う場をより参加しやすい形で設定していきます。互いに学び合い、指導力をボトムアップすることで、教職員の「充実感・働きがい」を高めていきます。

生徒自らが学び、他者と繋がり、主体的に動き出す魅力ある学校づくりに向けて、教職員一同、今後も誠心誠意取り組んでまいります。保護者の皆様、そして学校運営協議会をはじめとする地域の皆様の、変わらぬ温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。